

## 男女共同参画

### ひなまつり



企画課男女共同参画推進室

☎ 23-3917

3月3日のひなまつりは、旧暦では桃の花が咲く季節に当たるため「桃の節句」とも呼ばれています。今回はひなまつりに関わるある夫婦の会話を紹介します。

男 あ、かあちゃん、男女共同参画社会っていうのは「ひなまつり」や「端午の節句」に文句をつけてるっていうじゃないか。日本の伝統行事まで否定するのかい？

女 それはどうということ？

男 「ひなまつり」は女らしさ、「端午の節句」は男らしさを強調しすぎるといって「らしさ」の押しつけを嫌う人がいるって、何かに書いてあったな。

女 おひな様を飾ると春が来たってうれしくなるし、こいのぼりを見るとそろそろ夏の支度をしないとってウキウキするし、四季に合った行事で良いと思うけどね。伝統や文化の中にも見直した方がいいものもあるだろうけど、全部否定しようと言ってるのとは違うんじゃないの。

男 そうなのかい、日ごろか

ら男女共同参画だって俺に家事をやらせようとしているかあちゃんでもそう思うかい。

女 だって、どんなに時代が変わっても男は子どもを産めないでしょ。性の区別と性の差別はきちん和理解してほしいと思うけどね。なんだかごちゃ混ぜにしてしまっているんじゃないかな。ただね、男が働いて食べさせてやってるって感じで、家事を妻に押し付けて何もしないでいると、妻が倒れたときに困るのは男の人だ。ってことはわかって欲しいわね。

男 それは言えるな。

女 娘夫婦のとこなんか共働きだから、お互いに仕事も家事も分け合って、結構うまくやってるよね。うちはとうちゃんがこのごろ、いろいろと手伝ってくれるから、私が寝込んでも心配ないよ。ありがとうね、とうちゃん。

男 何だよ急に、お互いさまじゃないか。こちらこそ、ありがとうな。